

はじめに

私が、「土佐の高知」を初めて意識したのは、小学5年生の頃の1959年、ペギー葉山の歌で大ヒットした「南国土佐を後にして」であった。母がよく歌っていた。その頃は、父の仕事の関係から秋田県本荘市（現由利本荘市）で暮らしていた。重い雪空の秋田で、南国のまばゆいばかりの空が目には浮かんでいた。

初めて高知に足を踏み入れたのが40年以上前の大学生の頃、厳冬の石鎚山に登り、山頂から高知方面を眺めていた。四国の山の厳しさが痛感された。険しい山道の途中には小さな集落があり、東日本では見られない城壁のような石を組んだ狭い道は、まだ経験の乏しかった私には異次元の世界のように思えた。

産業面で高知を意識し始めたのは、30代に入ってからであり、当時、伝統的な地場産業を研究していたことから和紙への関心が深まり、典具帳紙という土佐の見事な極薄の紙に感心していたものであった。そして、4代になると高知通いが始まり、和紙生産の現場を歩きだした。

その後、しばらく縁がなく過ごしていたのだが、1990年代の後半の頃から高知が気になり始めた。地域問題の中に「中山間地域」というものがあり、その焦点が高知県と島根県であることを知った。地域産業の中でも大都市工業、企業城下町、地場産業の現場を重ねてきた私にとって、中山間地域は未知のものであり、その暮らしと産業のイメージが膨らんでいった。

そして、2000年の頃から縁があり島根県との付き合いが始まり、2000年代は中国山地に通う日々が続いた。中国山地と四国山地、いつもこの二つを意識して島根の山村の集落を訪れていた。10年ほど島根に通い、島根を焦点とする中山間地域と産業問題に関する書籍3冊（関満博編『地方圏の産業振興と中山間地域』新評論、2007年、関満博・松永桂子編『中山間地域の「自立」と農商工連携』新評論、2009年、同編『「農」と「モノづくり」の中山間地域』新評論、2010年）を公刊することができた。その間、高知はいつも気になっていた。

高知の中山間地域、漁業集落等との付き合いが本格的に始まったのは2008年の末。以来5年間、高知の中山間地域、漁業地域をめぐり歩いた。

高知県は海岸線が東西に長く、そして、北側には急峻な四国山地が迫っている。大野晃氏が言い始めた「限界集落」という言葉も、仁淀川上流の高知県の山間地から生まれていた。そして、2008年12月中旬に訪れた旧赤岡町（現香南市）にある高知県最大の地方青果卸市場の「(株)赤岡青果市場」には圧倒的な衝撃を受けた。赤岡を中心に東西50km圏の中山間地域をカバーし、毎日35台のトラックが早朝の4時に一斉に出発、約3500の出荷者（農家）の「庭先集荷」に向けて走っていた。限界集落の高齢農家の庭先まで訪れ、数個の野菜を預かり、荷姿を整えて市場に出していた。経営者は1923（大正12）年生まれの水田幸子さん、先代の事業を引き継ぎ65年、一貫して「農家の暮らしを豊かにしてあげたい」として、庭先集荷に取り組んできたのであった。

日本のこれからの経済社会の基本となる人口減少、高齢化。辺境の地にある高知県はその先端に位置する。人口減少は25年前から始まり、65歳以上人口の割合を示す高齢化率は2012年3月末には28.97%に達し、秋田県、島根県に次いでいる。「嶺北^{れいほく}」といわれる北部山間地域の大豊町では54%に達している。

他方、県庁所在地である高知市に人口の45%が集中するという現象を引き起し、周辺との格差を拡げている。東の辺境の室戸岬のある室戸市と西の辺境の足摺岬のある土佐清水市は激しい人口減少に見舞われ、いずれも人口は1万6000人ほどに縮小している。高知市への一極集中、北部中国山地の過疎化、そして、東西の地域の人口減少、これが現在の高知県人口の地域構造の基本となっているのである。

そして、マクロ経済指標でみると、数年前の2000年代の末の頃には、経済力の基本的な指標である「1人当たりの県民所得」と「製造品出荷額等」はいずれも全国の都道府県の最下位となった。しかも、ハウス栽培による「野菜王国」といわれながらも、一次産品（農水産物）と食料品（加工食品）の県際収支が大幅な赤字であることも判明、高知県の地域産業のあり方が問われることにもなった。その頃から、高知県は必死の地域産業振興に踏み込んでいった。

だが、高知の中山間地域や漁業地域の人びとの暮らしに接し、産業の現場を訪れると意外な思いをさせられることになる。各地に設置された農産物直売所を訪れると、新鮮な野菜と鮮魚、加工品が並び、人びとは買い物を楽しんでい

る。高知県は市場^{いちば}と屋台の活発なところであり、各地で市場や直売所が盛んに行われていた。また、中山間地域や漁業地域では女性たちを主体に一次産品加工、地産地消のレストラン、さらに、農家・漁家民宿・民泊も開始され、人びとが生き生きと動き始めているのであった。

高知には豊かな野菜、そして水産物がある。それを、これまでは素材の良さから生鮮で大都市に供給するばかりであった。先の一次産品と加工食品の県際収支が大幅赤字とは、そのような事情を背景にしている。

成熟社会、豊かな高齢社会に突入している日本の場合、「暮らし」と「食」をめぐる環境が大きく変化してきている。特に、豊かな高齢者が増加するにしたがい、調理のできない層も増えてきた。安心、安全は当然のこととして、鮮度の高い青果、水産物、そして、高いレベルの加工食品が求められている。それらは、いまや日本の数少ない成長部門なのである。そのような点からすると、優れた素材を提供してきた高知の可能性は大きい。

高知の各地で同時多発的に始まり出した地域資源を見直した「暮らし」と「食」をめぐる新たな取り組みは、人びとを刺激し、むしろ、不思議な新たな高まりを示しているのである。

なお、高知の中山間地域研究をスタートさせた2008年12月からの5年間で、高知への訪問は14回、訪れた現場は100を超え、お目にかかった方々は数百となった。その現場は高知の全域にわたった。人口が10分の1に減少した嶺北の大川村では廃校再利用の宿舎に泊まり、禰原や四万十川流域では農家・漁家民宿・民泊にもお世話になった。また、この5年間に地元の若者たちとの地域産業振興の勉強会を重ね、各地を共に歩いた。現場で取り組んでいる人びとと接し、高知の若者たちもおおいに刺激を受けているようであった。その中からすでに起業に向かっている若者も登場している。条件不利、辺境と思われている高知で、新たなうねりが生じてきているのであろう。

辺境の条件不利地域であり、マクロの指標では全国最下位が多い高知県は、むしろ、日本全体の問題が先鋭的に現れている。その新たな構造条件を受け止め、私たちのこれからのあり方を切り開いていく「先端の場」として、新たな一歩を踏み出していくことが求められているように思う。

人口減少、高齢化の中でむしろ地域産業の「現場」で存在感を高めている女性たち、そして、未来を担う若者たちが高知の地域課題を受け止め、新たな産業化の可能性に向かっていくことが、次の時代を切り拓いていくことになる。そうしたことに積極的になれるかが問われている。そして、そのような取り組みは、高齢化に向かう世界の各地に重大な示唆を与えていくことになろう。高知のこれからの産業化の取り組みは、日本ばかりではなく世界性を帯びているのである。

振り返ると、この5年の中ほどの2011年3月11日、東日本大震災が起こった。当日、私はたまたま岩手県釜石市に滞在していた。釜石のまちは津波で徹底的に破壊され、私も避難所に入った。狭い部屋の寿司詰め状態の40人ほどの人びとの中で、当時63歳の誕生日直前の私が最も若い方の一人であった。この三陸の被災地も人口減少、高齢化の進む条件不利地域であった。被災以来、3年を経過し、この間、私は被災地の産業復興の「現場」に身を寄せている。

そのため、高知県の地域産業への訪問も滞り、本書の刊行も予定より2年ほど遅れた。この間、事情が大きく変わっているケースもある。それでも、この5年間は高知県の地域産業の現場が大きく立ち上がる時期であり、その過程を記しておくことの意義は大きいと考え、刊行に踏み切ることにした。

なお、本研究を進めていくにあたり、実に多くの方々から支援を受けている。本書に登場していただいている現場の人びとに加え、5年にわたる現地訪問の環境を作っていただいた黒潮町役場の畦地和也氏にはたいへんにお世話になった。畦地氏と共に向かう現場は「発見」と「感動」に満ちあふれ、実に多くのことを学ぶことができた。ここで、深く感謝を申し上げたい。これからも、高知の現場を共に歩き、日本の地域産業の明日を語っていけることを願っている。

最後に、いつものように編集の労をとっていただいた新評論の山田洋氏、吉住亜矢さんに深く感謝を申し上げたい。まことにありがとうございました。

2014年3月

関 満博

目次

はじめに	1
序章 高知県地域産業の基本構造	17
1. 高知地域産業の輪郭	18
(1) 高齢化と人口の高知市への一極集中	18
(2) 1人当たり県民所得と、製造業出荷額は全国最下位	19
(3) 園芸、野菜に特化する高知農業	25
2. 条件不利地域の6次産業化の取り組み	30
(1) 『高知県産業振興計画』の推進	31
(2) 高知型「6次産業化」の可能性	33
3. 本書の構成	35
第I部 高知市及び周辺地域 一極集中、ハウス園芸、農商工連携	
第1章 高知市近郊のハウス園芸地帯の展開 高知市郊外、南国市、香南市、芸西村、安芸市	42
1. ハウス園芸の展開	42
(1) 芸西村／ハウス園芸の里のピーマン農家 — Uターン帰農の専業農家（公文基嗣氏）	43
(2) 香南市（旧夜須町）／最高級メロン生産に向かう — エメラルドメロンの産地化（土佐香美農業協同組合）	48
(3) 芸西村／授産事業のエディブル・フラワー — 障害者自立支援センター（第二香南くろしお園）	52

2. 豊かな農業を背景にする取り組み	55
(1) 高知市／100年の伝統を重ねる梨産地	
—新高梨でブランドを確立（針木梨組合）	56
(2) 香南市（旧香我美町）／中山間地域で健闘する農産物直売所	
—自分たちが建物も建てた（あぐりのさと）	59
(3) 香南市（旧夜須町）／JA 女性部から発展した道の駅併設直売所	
—法人化に向かう（やすらぎ市）	63
(4) 南国市／龍馬の里で「シャモ」によるまちおこし	
—多様な人びとが集う（ごめんシャモ研究会）	67
(5) 安芸市／造り酒屋が地域資源の発掘を重ねる	
—伝統のサトウキビから黒糖酒を（菊水酒造）	70
(6) 南国市／森林から新たな価値の創造	
—森林率84%をブランド化する（NPO 法人84プロジェクト）	74
3. 高知ハウス園芸の新たな可能性	78

第2章

高知市周辺の農商工連携

郊外及びその背後地の嶺北地域	81
----------------	----

1. 高知市と周辺地域の状況	82
(1) 高知市への一極集中（県人口の約45%）	82
(2) 高知市と嶺北地域の比較	84
2. 周辺地域の農商工連携の取り組み	87
(1) 高知市（旧鏡村）／中山間地域から市街地に攻め込む産直	
—任意団体によるスムーズな対応（鏡むらの店）	88
(2) 土佐町／JA 直売所から農村女性起業のパン屋へ	
—地元の米を使った本格的な米粉パン（米米ハート）	92
(3) 本山町／辺境の農産物直売所の役割	
—農業会社による運営（本山さくら市）	96
(4) 高知市（旧土佐山村）／リゾートホテルによる集落活性化	
—地域の計画を自分たちで（オーベルジュ土佐山）	100

(5) 高知市／都市近郊の体験型牧場の進化	
— ソフトクリームショップと直売所も併設（岡崎牧場）	105
3. 中山間地域、周辺地域のあり方	108

第Ⅱ部 究極の過疎・高知の山間地域 嶺北、仁淀川流域、檜原の取り組み

第3章 過疎地域の地域資源を見直した産業化	
嶺北地域の取り組み	114
1. 嶺北地域／究極の「過疎」	115
2. 大川村／人口最小の村の取り組み	119
(1) 村の命運をかけて取り組む	
— 産地化を目指す（はちきん地鶏）	119
(2) 人口が10分の1になった山村で木工に取り組む	
— 地元出身のデザイナーによる（木星会）	124
3. 本山町／天空の郷からの挑戦	127
(1) 急峻な棚田から産まれる特別栽培米	
— 室戸深層水を使う（天空の郷）	128
(2) 商工会青年部が地域活性化で起業	
— 間伐材を使った木工製品（ぼうむ）	131
4. 土佐町・大豊町／地域資源を見直す	136
(1) 山間地域からネット通販	
— 地元材で犬小屋制作（Kハウス）	136
(2) 四国第1位の高齢化率の町の挑戦	
— 農作業の受託と新産業の育成（大豊ゆとりファーム）	140
5. 嶺北地域の産業展開のこれから	145

第4章

仁淀川流域、禰原の産業化

山間の上流域から下流域まで	149
1. 仁淀川上流域、禰原周辺の基本状況	149
2. 仁淀川上流域／究極の山間地域の産業化	151
(1) 越知町／山間の集落ビジネスの展開	
— 雲上の畑で薬草の契約栽培（虹色の里横畠）	152
(2) 仁淀川町（旧吾川村）／廃校を宿舎、研修施設、居酒屋に	
— 有償ボランティアを意識（山村自然楽校しもなの郷）	156
(3) 仁淀川町（旧池川町）／茶業産地の良心市の現在	
— 合併町村の地域振興の課題（439市）	159
(4) 仁淀川町（旧池川町）／町まるごと販売事業に展開	
— 清涼な水をベースにカット野菜に展開（フードプラン）	162
3. 禰原周辺／雲上の里の産業化	166
(1) 禰原町／「雲の上のまちづくり」に向かう	
— 風・森・光・水の自然エネルギーに（共生と循環のまちづくり）	167
(2) 禰原町／雲上の里で地域起こしに向かう	
— キムチと韓国風レストランに展開（鷹取の家）	171
(3) 禰原町／紙漉き体験と民泊を展開	
— オランダ人が和紙に惹かれて定住（かみこや）	174
(4) 津野町（旧東津野村）／若い女性が有機栽培野菜でジャムを製造	
— オーガニックマーケットで人気（ジャムささか）	177
4. 仁淀川下流域／流域の豊かさの産業化	181
(1) いの町（旧伊野町）／市街化の進む農地でマンゴーを栽培	
— 家族経営の都市農業（むらた農園）	182
(2) 日高村／伝統の典具張紙で世界の古文書を修復	
— 世界一薄い和紙を生産（ひだか和紙）	185
(3) 日高村／暮らしの中の問題をビジネスにつなげて解決	
— 対等の福祉を求めて（日高わのわ会）	189

（４）土佐市／和紙の里で不織布に向かう	
——楮の自家栽培に入る（三昭紙業）	193
（５）高知市（旧春野町）／写真館が地産農作物に新たないのちを	
——仁淀川流域の集落連携を目指す（スタジオ・オカムラ）	196
５．流域でみる新たな産業化の可能性	200

第Ⅲ部 辺境の地・四万十川流域 地域資源を活かした産業化

第５章 6次化に向かう四万十川周辺の農業	204
１．民間の独自の取り組み	205
（１）四万十市（旧中村市）／無農業栽培、露地飼いの養鶏に取り組む	
——土佐ジローとポンカンをメインに（一圓農場）	205
（２）三原村／過疎の村で地鶏の養鶏に向かう	
——採卵から加工までを意識（しゅりの里自然農園）	209
（３）四万十市（旧中村市）／農協が農商工連携で新商品を開発	
——特産のユズとショウガをベースに（高知はた農業協同組合）	212
（４）大月町／若手農家と若手農協職員が起業	
——辺境の地に新たな可能性を（苺氷り本舗）	215
（５）黒潮町（旧大方町）／伝統的な黒砂糖生産を再生し、地域の特産物へ	
——「小さな加工」の取り組み（大方精糖生産組合）	218
（６）四万十市（旧中村市）／地域活性化を願い有志で有限責任事業組合を設立	
——地元の農産物を使った加工品の開発（LLPしまんと）	222
（７）大月町／建設業からの農業参入	
——農産物生産から自社加工まで（大月農園）	225
２．集落の取り組み	228
（１）四万十市（旧西土佐村）／地区がJA出張所を引き継ぐ	
——住民が出資する株式会社（大宮産業）	228

(2) 黒潮町(旧佐賀町)／集落営農の取り組み	
—ニラの栽培に向かう(荷稻集落) ……………	233
(3) 四万十市(旧中村市)／市街地に近い集落の課題と模索	
—安全な米と野菜を市街地に供給(片魚集落) ……………	237
(4) 四万十市／旧村が地域振興に向かう	
—カヌー、キャンプ、直売所、農産物加工(大川筋地域振興組合) ……	241
3. 民間と公共の新しい形 ……………	244
(1) 黒潮町(旧大方町)／まちの資源を活かして製造・販売	
—黒糖、ラッキョウの加工から入る(黒潮町特産品開発協議会) ……	244
(2) 大月町／町の事業として炭焼釜10基を用意	
—原料生産地から製品生産地へ向かう(大月町備長炭生産組合) ……	246
(3) 大月町／農家21戸を組織し、生産に踏み出す	
—タバコからの転作でサツマイモ栽培に(大月町芋づくり生産組合) ……	248
(4) 四万十市(旧西土佐村)／育苗、新規就農者の育成、新しい品目の開発	
—高知県に多い農業公社(四万十市西土佐農業公社) ……………	250
(5) 三原村／「ユズ」で過疎の村の活性化を図る	
—地域農業の担い手として(三原村農業公社) ……………	254
(6) 三原村／村の期待に応える	
—四国最大規模のトマトのハウス栽培(四万十みはら菜園) ……………	256
(7) 土佐清水市／地域の総力を結集した取り組み	
—B級野菜に付加価値をつける(土佐清水元気プロジェクト) ……	260
4. 6次化への課題と可能性 ……………	263

第6章

四万十川流域周辺の水産業の新たな展開

カツオと、マグロ、ブリ等の高級魚に展開 …………… 268

1. 高知県漁業、水産加工業の輪郭 ……………	269
2. 水産業をめぐる新たな動き ……………	272
(1) 黒潮町(旧佐賀町)／故郷の漁業活性化に向かう	
—カツオの一本釣りと活餌(むつ丸・むつ網) ……………	273

(2) 土佐清水市／宗田節の70%シェアを握る	
— 業務用から一般用への取り組み（土佐清水鯉節水産加工業協同組合）…	276
(3) 土佐清水市／地元を発信していくことを目指す	
— 宗田節で新商品を開発（ウェルカムジョン万カンパニー）…	279
(4) 四万十町（旧窪川町）／漁協の女性たちが加工品に向かう	
— シイラを地域の特産物に（四万十マヒマヒ丸企業組合）…	282
(5) 宿毛市／レストランチェーンが魚加工工場を展開	
— 地元の仲買人が参加（ピアーサーティーさかな工房）…	286
3. 女性が活躍	289
(1) 黒潮町（旧佐賀町）／事務の女性が漁村で起業	
— 地ものの魚を加工販売（土佐佐賀産直出荷組合）…	290
(2) 黒潮町（旧佐賀町）／漁村女性グループが干物生産	
— 漁師の女将の取り組み（くろしお工房）…	294
(3) 大月町／養殖の町でキビナゴケンビに向かう	
— 養殖業から水産加工に向かう（三重丸水産）…	298
(4) 宿毛市／船主の夫人が加工品に向かう	
— 特産のキビナゴを加工品に（土佐ひめいち企業組合）…	300
(5) 宿毛市／漁師の若夫婦が水産加工に展開	
— ブリの手釣りに付加価値をつける（龍神水産と沖の島水産）…	303
4. 高知水産業の課題と可能性	306

第7章

四万十川流域の女性起業と集落ビジネス

地域資源に新しい価値をつける

1. 中山間地域の活性化と女性起業	311
2. 農産物直売所の展開	315
(1) 四万十町（旧十和村）／女性たちによる直売所の展開	
— レストランも開始（おかみさん市、四万十ドラマ）…	315
(2) 黒潮町（旧大方町）／道の駅と直売所の経営	
— 地域の特産物を置く（ピオスおおかた）…	320

3. 農村レストランと農産物の小さな加工	323
(1) 土佐清水市／漁協女性部の郷土食の提供	
—男性たちも手伝う（松尾さえずり会）	324
(2) 四万十市（旧西土佐村）／流域で「仕事づくり」と「食事の場」提供	
—四万十川中流のオアシス（しゃえんじり）	327
(3) 四万十市（旧西土佐村）／元村役場職員の女性が起業	
—地産外商とケーキ屋（山間屋）	331
4. 農山漁村で加工と体験	335
(1) 黒潮町（旧大方町）／公務員退職後、農家民宿	
—地域活性化に向けた多様な取り組み（農家民宿かじか）	336
(2) 三原村／ドブロク特区と農家食堂、民泊の展開	
—7戸の農家が参加（のうか民宿 NOKO）	339
(3) 黒潮町（旧佐賀町）／漁協の女性たちの取り組み（黒潮一番館、海生丸）	343
5. 女性起業と集落ビジネスが地域を活性化する	346

終章 「暮らし」と「食」をめぐる高知の未来 355

1. 新たな地域産業、「食」産業の創生	355
2. 人口減、高齢化の中で「希望」を	360

補論Ⅰ 高知県東部沿岸の農村女性の取り組み 「農産物直売所」「農産物加工」「農村レストラン」の 3点セット 366

1. 香南市（旧赤岡町）／「庭先集荷」まで行う地方青果卸市場	
—80代の女性経営者が牽引（赤岡青果市場）	367
2. 安芸市／女性たちによる農村レストランの展開	
—幅広く展開する（土居郷土料理研究会）	372
3. 香南市（旧吉川村）／女性たちによる地場産品の加工	

—加工からレストランを視野に（はま美人を育てる会）……………	376
4. 高知県の沿岸部に展開する農産物直売所	
—6カ所の農産物直売所のケース……………	381
(1) 南国市／JA かざぐるま市 ……………	382
(2) 香南市（旧吉川村）／天然色市場……………	383
(3) 香南市（旧夜須町）／やすらぎ市……………	385
(4) 芸西村／琴ヶ浜かっぱ市場……………	386
(5) 安芸市／安芸駅ちばさん市場……………	387
(6) 田野町／田野駅屋「たのえきーや」……………	388
5. 高知の農産物直売所の興味深い点……………	389

補論Ⅱ

山間地に「独立王国」を形成 ユズをベースに30億円の事業に育てる （馬路村農業協同組合）……………	393
---	-----